１ｇ中のフィチン酸分解力単位

$$= (OD_T - OD_{TB}) \times F \times \frac{1}{30} \times \frac{1}{W} \times Z$$

OD_T：試験反応溶液の平均吸光度

OD_{TB}：試験対照溶液の平均吸光度

Ｚ：希釈倍率

Ｆ：検量線から求めた吸光度差１に対応するリン酸イオン濃度（μmol／mL）

Ｗ：試料採取量（ｇ）

検量線の作成

リン酸二水素カリウム約10ｇを105℃で２時間乾燥させた後、デシケーターで保存し、その0.682ｇ（0.6815～0.6824ｇ）を量り、ポリソルベート20添加（0.01％）0.25mol／L酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）を加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、さらに同混液を標線まで加えて100mLとしたものを標準原液とする。

標準原液を順次水で正確に２倍、４倍、８倍及び16倍に希釈し、標準液とする。各標準液0.04mLをマイクロピペットを用いて量り、12×150㎜の試験管に入れ、ポリソルベート20添加（0.01％）0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）0.36mLをマイクロピペットを用いて加え混合した後、基質溶液0.8mL及び反応停止発色液0.8mLをマイクロピペットを用いて加え混合したものを、リン酸標準反応溶液とする。リン酸標準反応溶液を室温で10分間放置した後、11,000×ｇで３分間遠心分離を行い、得られた上澄液につき、水を対照液として波長415nmにおける吸光度OD_{S1}、OD_{S2}、OD_{S3}及びOD_{S4}を測定する。別にポリソルベート20添加（0.01％）0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）0.4mLをマイクロピペットを用いて量り、12×150㎜の試験管に入れ、基質溶液0.8mL及び反応停止発色液0.8mLをマイクロピペットを用いて加えて混合したものを、リン酸標準対照溶液とする。リン酸標準対照溶液を室温で10分間放置した後、11,000×ｇで３分間遠心分離を行い、得られた上澄液につき、水を対照液として波長415nmにおける吸光度OD_Bを測定する。リン酸イオン濃度を縦軸に、測定したリン酸標準反応溶液とリン酸標準対照溶液の吸光度差（$OD_{S1}-OD_B$）、（$OD_{S2}-OD_B$）、（$OD_{S3}-OD_B$）及び（$OD_{S4}-OD_B$）を横軸にとり、検量線を作成する。

7　飼料添加物一般の試験法並びに各飼料添加物の成分規格及び製造方法等の基準に用いる標準品、試薬・試液、容量分析用標準液、標準液、色の比較液、計量器・用器、ろ紙、滅菌法及びベルトラン糖類定量表の規定

⑴　（略）

⑵　試薬・試液

（略）

亜鉛（標準試薬）～酢酸塩酸緩衝液、0.1mol／Ｌ、酵素力試験用　（略）

（削る。）

酢酸・酢酸アンモニウム緩衝液、pH4.8～酢酸ナトリウム、無水　（略）

0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）　酢酸ナトリウム34.02ｇ（34.015～34.024ｇ）に水を加えて溶かし、塩酸でpHを5.5に調整し、水を加えて1,000mLとする。

酢酸ナトリウム試液～レゾルシン　（略）

⑶～⑼　（略）

7　飼料添加物一般の試験法並びに各飼料添加物の成分規格及び製造方法等の基準に用いる標準品、試薬・試液、容量分析用標準液、標準液、色の比較液、計量器・用器、ろ紙、滅菌法及びベルトラン糖類定量表の規定

⑴　（略）

⑵　試薬・試液

（略）

亜鉛（標準試薬）～酢酸塩酸緩衝液、0.1mol／Ｌ、酵素力試験用　（略）

酢酸塩酸緩衝液、0.25mol／Ｌ、酵素力試験用　酢酸ナトリウム34.02ｇ（34.015～34.024ｇ）に水を加えて溶かし、塩酸でpHを5.5に調整し、水を加えて1,000mLとする。

酢酸・酢酸アンモニウム緩衝液、pH4.8～酢酸ナトリウム、無水　（略）

（新設）

酢酸ナトリウム試液～レゾルシン　（略）

⑶～⑼　（略）